

<令和2年度 インターネット福祉保健モニターアンケート>

「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う健康意識等への影響」について

アンケート結果のポイント

- 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、健康意識が高まった人は8割以上
 - ・新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、健康意識に変化があったか聞いたところ、「高まった」・「やや高まった」と回答した人は、約84%であった（Q2）。
- 新型コロナウイルス感染症が流行し始めた頃より、体重が増えた人は約4割、減った人は約1割
 - ・新型コロナウイルス感染症が流行し始めた昨年春頃より、体重に変化があったか聞いたところ、「増えた」と回答した人は、約39%であり、「減った」と回答した人は、約12%であった（Q4）。
- 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、外食する機会が減った人は8割以上
 - ・新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、食生活（外食する機会）に変化があったか聞いたところ、「（外食する機会が）減った」と回答した人は、約82%であった（Q6-2）。
- 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、ストレスが増えた人は6割
 - ・新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、ストレス状態に変化があったか聞いたところ、「ストレスが増えた」と回答した人は、約60%であった（Q8）。
- 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、睡眠の満足度が低下した人は2割以上、高まった人は約1割
 - ・新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、睡眠の満足度（睡眠時間や睡眠の質）に変化があったか聞いたところ、「低下した」と回答した人は、約24%であり、「高まった」と回答した人は、約12%であった（Q9）。
- 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、対面による直接交流が減り、オンライン等による遠隔交流が増えた人は5割以上、直接交流も遠隔交流も減った人は2割以上
 - ・新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、人との交流の手段や頻度に変化があったか聞いたところ、「対面による直接交流が減り、オンライン等による遠隔交流が増えた」と回答した人は、約53%であり、「対面による直接交流もオンライン等による遠隔交流も減った」と回答した人は、約24%であった（Q10）。
- がん検診の対象者で、今年度、がん検診を受診した人は約5割、受診するつもりだったが新型コロナウイルス感染症の心配があり受診していない人は1割以上
 - ・がん検診の対象者に、今年度、国が推奨するがん検診（胃がん、肺がん、大腸がん、乳がん、子宮頸がん。いずれか一つでも可）を受診したか聞いたところ、「受診した」と回答した人は、約47%であり、「受診するつもりだったが、新型コロナウイルス感染症の心配があり受診していない」と回答した人は、約15%であった（Q18）。

今回のアンケート概要

テーマ： 「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う健康意識等への影響」
期間： 令和3年3月3日（水曜日）正午から令和3年3月12日（金曜日）正午まで
方法： インターネット（モニターがアンケート専用サイトから回答を入力する）
対象モニター数： 499名
有効回答数： 365名
回答率： 73.1%

今回のアンケート回答者属性

※有効回答数365人を100%としたときの割合

性別	男性	176	48.2%
	女性	189	51.8%

年代別	20代	12	3.3%
	30代	14	3.8%
	40代	63	17.3%
	50代	107	29.3%
	60代	85	23.3%
	70歳以上	84	23.0%

職業別	会社員	101	27.7%
	団体職員（NPO含む）	17	4.7%
	自営業	28	7.7%
	福祉サービス提供事業経営者	4	1.1%
	福祉サービス提供事業従事者	50	13.7%
	教職員	2	0.5%
	学生	4	1.1%
	主婦	59	16.2%
	無職	61	16.7%
その他	39	10.7%	

※別紙の集計結果は百分率（%）で示し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。
そのため、合計が100.0%にならないものがある。